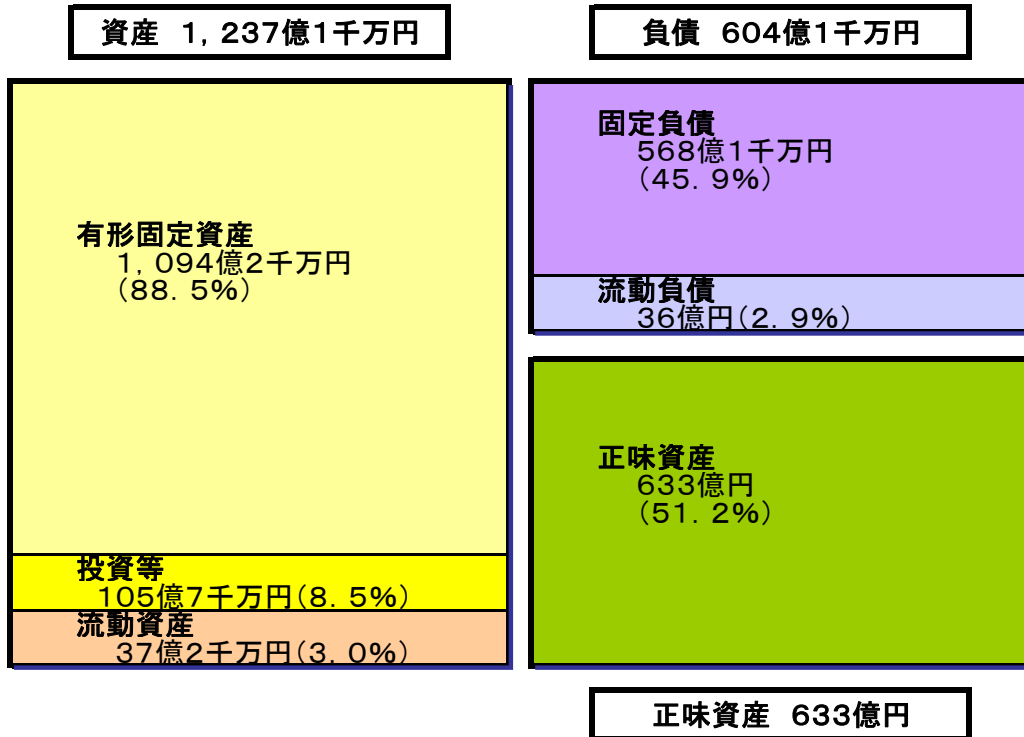


## ○ 篠山市のバランスシート

篠山市の平成16年度末のバランスシートは、次の通りです。これによると、これまでの行政活動により形成された資産は、平成16年度末現在で、1,237億1千万円となっています。また、この資産形成のために604億1千万円の負債が生じており、資産に対する割合は48.8%となっています。

### (1) 普通会計のバランスシート(平成17年3月31日)



### (2) バランスシートの作成方法

篠山市では、総務省の「地方公共団体の総合的な財政分析に関する調査研究会」が平成12年3月に報告した作成基準に基づいて作成しています。	
作成基準等	① 対象とする会計と年度 ・普通会計の平成16年度決算(作成の基準日は平成17年3月31日) (普通会計:自治体における決算の統計上統一的に用いられる会計区分で、篠山市の場合は一般会計と住宅資金特別会計、診療所特別会計、観光施設事業特別会計、ガス事業清算特別会計を合わせたもの) ② 基礎とした数値 昭和44年度以降の決算統計データ。(地方財政状況調査として国への報告数値) ③ 作成基準 ・資産評価は「取得原価」を用いて、また減価償却は「定額法」により行っています。 ・固定制配列法を採用し、固定・流動の区分については、原則として1年基準です。 ・出納整理期間における出納については、バランスシートの作成基準日まで終了したものとして、処理します。
用語解説	① 資産 市の行政活動の結果として形成されたもので、市民サービスを行うために必要な土地や建物などの経営資源のことです。 ② 負債 資産を形成するために借り入れた市債の未償還残高など後年度の負担となるものです。 ③ 正味資産 資産と負債の差で、これまでの世代で負担され、後の世代が実質的に引継ぐ財産を表しています。

### (3) バランスシートからわかること

「財産の合計」は1,237億1千万円、「今後支払う借金の合計」は604億1千万円、「今後支払いする必要のない正味の財産の合計」は633億円となっており、これは篠山市が平成16年度までの間に1,237億1千万円の建物や土地などの財産を築き、今までに633億円の支払いを終え、正味の財産を保有していますが、今後558億4千万円の市債償還など、604億1千万円の借金を支払っていかねばならないということがわかります。一方、篠山市の主な財産は建物・土地であり、平成16年度末現在で今後支払いする借金604億1千万円に対して資金手当として使える財産は、今ある現金・預金33億2千万円と特定目的基金41億6千万円を合わせて74億8千万円だけとなっています。したがって、バランスシートの上では今後支払いする借金には、将来の市税収入などに依存しなければならず、今後も税収の大幅な増加が見込めない現在、引き続き財政の健全化に留意していく必要があります。

ただ、市債残高558億4千万円のうち、償還時に地方交付税の補てん措置が328億2千万円(58.8%)見込まれ、実質的な負担予定額は230億2千万円となり、市としては後年度負担に地方交付税措置のある有利な起債の活用にも努めてきたと言えます。

### (4) 前年度のバランスシートとの比較

平成15年度のバランスシートと比較すると、資産は6億円(0.5%)の減となっています。これに対して、負債は6千万円(0.1%)の減、正味資産は11億1千万円(1.8%)の増となっています。

増減の内訳について見てみると、資産では、投資等の増加額が最も大きくなっています。これは、県水導入事業による水道会計出資金による伸びであると言えます。また、流動資産の減少については財政調整基金の減によるものです。

負債については、6千万円(0.1%)の減となっております。これは、地方債の発行が減少したことによると考えられます。しかしながら、合併以降実施した事業に係る地方債の元金償還が本格化するため流動負債は8億4千万円(30.4%)と増加しております。

(単位:億円)

	平成16年度		平成15年度		比較		主な増減内容
	(A)	構成比 (%)	(B)	構成比 (%)	(A)-(B)	伸率 (%)	
<b>資 産</b>	<b>1237.1</b>	100.0	<b>1243.1</b>	100.0	<b>△ 6.0</b>	<b>△ 0.5</b>	
<b>有形固定資産</b>	<b>1094.2</b>	88.5	<b>1103.4</b>	88.8	<b>△ 9.2</b>	<b>△ 0.8</b>	
土木費	345.6	27.9	339.5	27.3	6.1	1.8	道路、街路整備による増
教育費	333.8	27.0	334.1	26.9	△ 0.3	△ 0.1	
その他	414.8	33.6	429.8	34.6	△ 15.0	△ 3.5	清掃センター減価償却による減
<b>投資等</b>	<b>105.7</b>	8.5	<b>98.3</b>	7.9	<b>7.4</b>	<b>7.5</b>	
投資及び出資金	39.9	3.2	35.8	2.9	4.1	11.5	水道会計出資金(県水導入)の増
貸付金	11.5	0.9	11.8	0.9	△ 0.3	△ 2.5	
基金	49.2	4.0	44.8	3.6	4.4	9.8	篠山総合スポーツセンター基金の増
退職手当積立金	5.1	0.4	5.9	0.5	△ 0.8	△ 13.6	
<b>流動資産</b>	<b>37.2</b>	3.0	<b>41.4</b>	3.3	<b>△ 4.2</b>	<b>△ 10.1</b>	
現金・預金	33.2	2.7	37.6	3.0	△ 4.4	△ 11.7	歳計現金の減
未収金	4.0	0.3	3.8	0.3	0.2	5.3	
<b>負 債</b>	<b>604.1</b>	48.8	<b>604.7</b>	48.7	<b>△ 0.6</b>	<b>△ 0.1</b>	
<b>固定負債</b>	<b>568.1</b>	45.9	<b>577.1</b>	46.4	<b>△ 9.0</b>	<b>△ 1.6</b>	
市債	522.4	42.2	532.4	42.8	△ 10.0	△ 1.9	市債残高の減
退職給与引当金	45.7	3.7	44.7	3.6	1.0	2.2	
<b>流動負債</b>	<b>36.0</b>	2.9	<b>27.6</b>	2.2	<b>8.4</b>	<b>30.4</b>	翌年度償還予定元金の増
<b>正味資産</b>	<b>633.0</b>	51.2	<b>621.9</b>	50.3	<b>11.1</b>	<b>1.8</b>	
負債／資産 (%)	48.8		48.6		1.4		

用語解説	① <b>有形固定資産</b> 道路、市営住宅、学校、などの施設や庁舎などの建物、土地が含まれる市の財産で、それぞれの耐用年数に応じて減価償却した後の資産額を計上しています。
	② <b>投資等</b> 水道事業会計への出資金、住宅新築資金やJRの複線化にかかる貸付金、地域福祉など特定の目的に使用するために積み立てた基金が含まれます。また市が加入している職員の退職手当組合の積立金のうち篠山市の持分相当額を計上しています。
	③ <b>流動資産</b> 流動性の高い財政調整基金や減債基金、形式収支にあたる歳計現金、未納の市税などの未収金などです。
	④ <b>固定負債</b> 今後支払いする借金であり、平成16年度末の市債残高のうち、翌々年度以降に返済が予定されている元金の額と、年度末に在職する全職員が普通退職したと仮定して、支給しなければならない退職手当額を退職給与引当金として計上しています。
	⑤ <b>流動負債</b> 平成16年度末の市債残高のうち、翌年度に返済が予定されている元金の額を計上しています。

## (5) 行政目的別有形固定資産の内訳

バランスシートの資産の大部分を占める有形固定資産について、行政目的別に分類することにより、これまでの行政活動において、どの分野にどれだけの社会資本が整備されているかを把握することができ、また基本計画と比較して将来何が必要かを判断する指標としても使えます。

篠山市の有形固定資産を、行政目的別に平成11年度と平成16年度で比較してみると、全体の増加割合の40.0%を上回って増加しているものは、衛生費や商工費などの分野であり、増加額では、衛生費、教育費、土木費の順に多くなっています。これにより合併後、環境衛生や教育施設の充実、道路等の都市基盤に係る資産形成に力を入れてきたことがわかります。

### ①行政目的別有形固定資産の経年比較

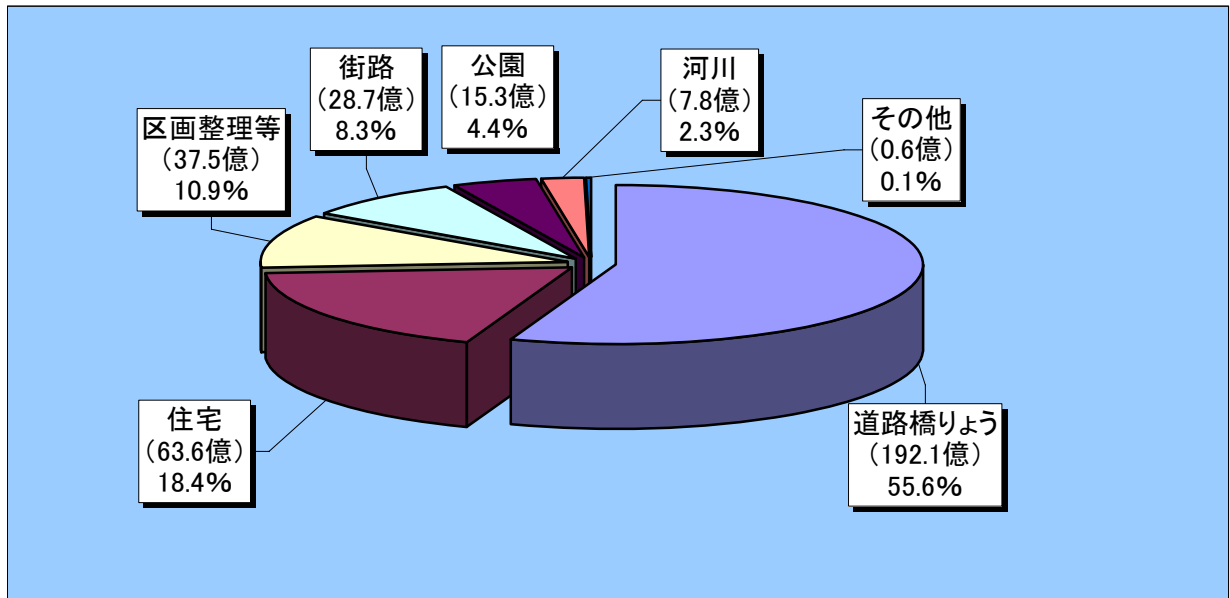
(単位:億円)

	平成11年度		平成16年度		経年比較		平成11年度以降に完成した主な施設
	(A)	構成比 (%)	(B)	構成比 (%)	(B)-(A)	伸率 (%)	
1 総務費	73.6	9.3	93.3	8.5	19.7	26.8	チルドレンズミュージアム
2 民生費	32.0	4.1	37.1	3.4	5.1	15.9	障害者総合支援センター
3 衛生費	39.0	4.9	132.9	12.1	93.9	240.8	斎場、ごみ焼却施設、リサイクルプラザ、最終処分場、城南コミュニティプラント
4 労働費	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	
5 農林費	81.7	10.4	101.1	9.2	19.4	23.7	農道、林道、市民農園(ハートピア、大山)、こんだ薬師温泉
6 商工費	16.5	2.1	39.6	3.6	23.1	140.0	市民センター、王地山公園ささやま荘
7 土木費	286.2	36.3	345.6	31.6	59.4	20.8	道路・街路、西岡屋団地、こしお団地公園、篠山口駅周辺整備
8 消防費	7.5	1.0	10.4	1.0	2.9	38.7	コミュニティ消防センター、高規格救急車、化学消防ポンプ車、高機能消防指令装置
9 教育費	251.4	31.9	333.8	30.5	82.4	32.8	大芋小校舎、岡野・村雲小体育館、中央図書館、四季の森生涯学習センター 篠山中学校、西紀運動公園、スポーツセンタ
10 その他	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	
合計 (うち土地)	788.3 (215.5)	100.0	1094.2 (290.5)	100.0	305.9 (75.0)	38.8 (34.8)	

## ②有形固定資産(土木費・教育費)の内訳

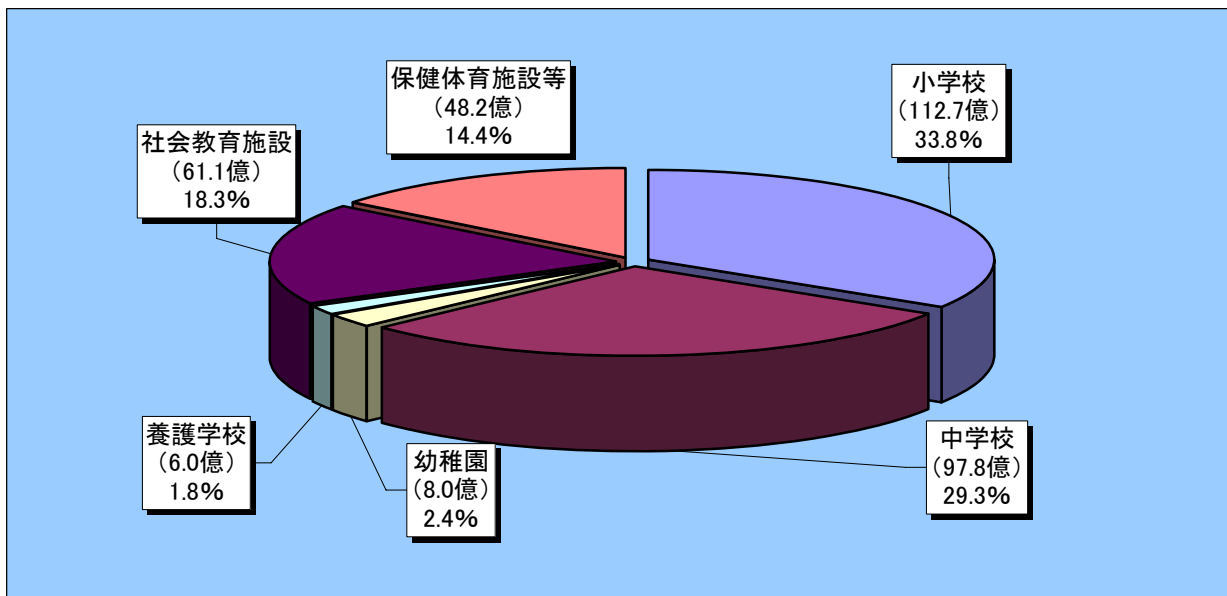
### ◆土木費有形固定資産の内訳

有形固定資産のうち最も多く、全体の31.6%を占めているのが土木費です。その内訳は、道路橋りょう、街路で全体の6割を占め、金額は221億円となっています。次いで市営住宅が64億円と全体の約2割を占めています。



### ◆教育費有形固定資産の内訳

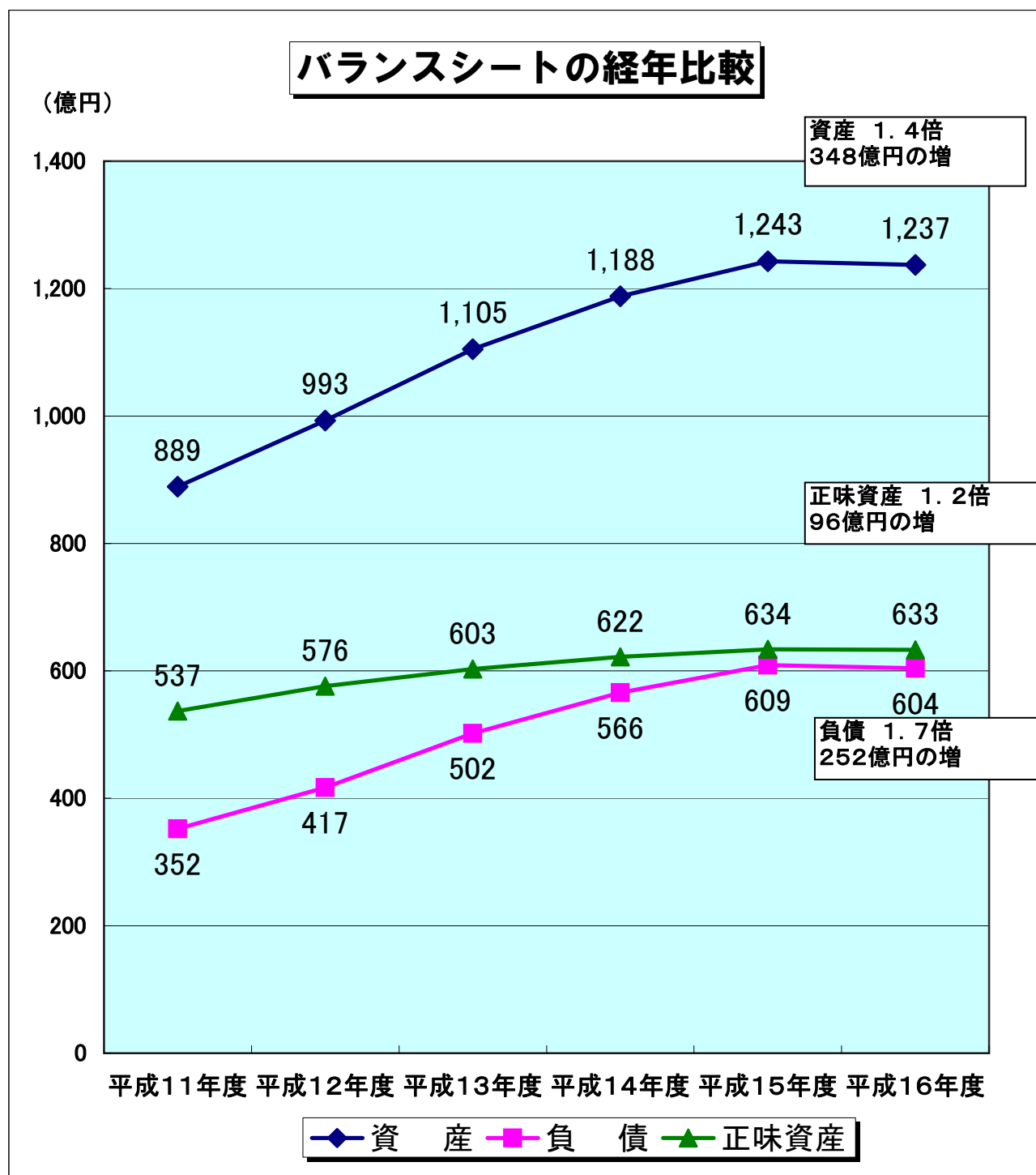
有形固定資産の30%を占める教育費は、小中学校で全体の6割を占め、金額は211億円となっています。次いで中央図書館や生涯学習センター、公民館などの社会教育施設が61億円、給食センターや体育館などの保健体育施設が48億円と続いています。



## (6) 平成11年度からの経年比較

バランスシートの経年比較を行うことにより、資産、負債及び正味資産がどのように形成されてきたかを見ることができます。合併以後の平成11年度末から6か年の推移をみると、資産が1.4倍、正味資産が1.2倍の伸びになっているのに対して、負債は1.7倍と高い伸びとなっており、負債が正味資産の額にかなり接近してきています。

このことから、資産形成において、その財源の多くを市債に頼ってきたことが明確になっており、後の世代の負担が大きくなってきていることが示されています。今後、起債を財源とした投資事業を抑制し、繰上償還等により負債の増加を抑えていくことが、重要な課題となっていきます。



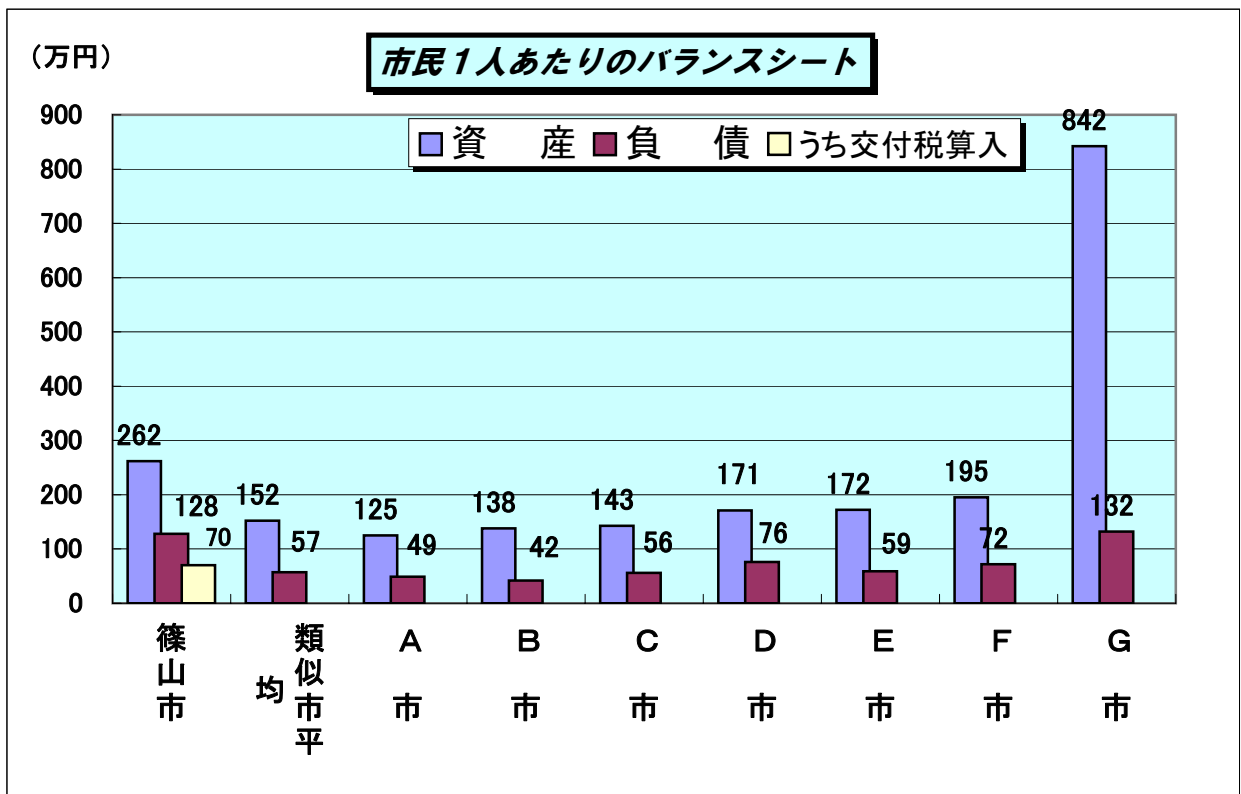
## (7) 市民一人あたりのバランスシート

市民1人あたりのバランスシートを県内の他の都市と比較することにより、篠山市の資産や負債の状況について相対的に評価し分析することができます。

篠山市の市民1人あたりの資産額は262万円で、県内の人口規模に近い都市(類似市)と比較すると1.7倍と高い水準にあり、1人あたりでは多額の資産が整備されていることがわかります。

しかしながら、その資産を構築するための財源を市債で調達したことから、市民1人あたりの負債額も128万円と類似市の2倍以上あり、1人118万円の借金を背負っていることとなります。この118万円の負債額のうち70万円については、将来地方交付税で補てんされる予定ですが、それを控除しても1人あたり48万円と、類似市と比較しても将来の世代の負担が大きくなってきていることが示され、この負債をできるだけ早く減らしていくことが、重要な課題となっています。

ただ類似市のうち、「ごみ、し尿、消防」といった業務を広域行政事務組合で行っている場合は、これらの業務に係る資産や負債がバランスシートに反映されないことから、単純な比較は難しく、篠山市の市民1人あたりの額が高くなっている要因のひとつと考えられます。



### 市民1人あたりの金額

(単位: 万円)

	篠山市	類似市平均	A市	B市	C市	D市	E市	F市	G市
資産	262	152	125	138	143	171	172	195	842
負債	128	57	49	42	56	76	59	72	132
うち交付税算入	70								
正味資産	134	95	76	96	87	95	113	123	710
負債／資産	48.9%	37.5%	39.2%	30.4%	39.2%	44.4%	34.3%	36.9%	15.7%

\* 1類似市平均については、合併等により例年ベースの数値でないC、F及びGは除いて平均

\* 2上記の表のうち「うち交付税算入」については、類似市は積算がないため斜線表示



## (8) 企業会計的財務分析による比較

バランスシートにおける「正味資産構成比率」や「流動比率」など、企業会計の財務分析で一般的に使われている財務指標とともに、債務の返済能力や資産形成にかかる世代間負担といった視点から、篠山市の財政状況をさまざまな角度で把握することができます。

財務体質を表す「正味資産構成比率」や「流動比率」については、指數的にはほぼ適正で、県内の人口規模に近い都市(類似市)と比較しても、やや低い程度の数値となっています。

しかしながら、将来の負担をみる「世代間負担比率」や市債などの債務の返済能力をみる「市債償還所要年数」は、13.7年と平均の7.7年を大きく上回り、また「負債対標準財政規模比率」は、2倍以上と類似市の中でもかなり高くなっています。市の規模からみても、負債である市債の残高が多いことがわかり、ここでも後の世代への負担が高いことが示されます。ただ前にも述べたように広域行政組合にて借入た地方債の残高が反映されないことなどにより、単純な比較は難しい状況です。

### ◆財務指標と他市との比較

(単位: %、年)

	計算式	篠山市	類似市平均	A市	B市	C市	D市	E市	F市	G市
1 正味資産構成比率	$\frac{\text{正味資産}}{\text{資産}} \times 100$	51.2	62.8	61.0	69.3	60.8	55.5	65.4	62.8	84.3
2 流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	103.4	207.1	152.3	314.0	274.3	65.1	296.8	288.7	130.0
3 予算額資産比率	$\frac{\text{資産}}{\text{歳入総額}} (\text{年})$	4.8	3.7	3.4	3.6	3.2	2.8	5.1	3.3	10.0
4 世代間負担比率	$\frac{\text{固定負債のうち市債}}{\text{有形固定資産}} \times 100$	47.7	32.3	34.1	27.1	37.5	41.5	26.3	33.0	13.6
5 市債償還所要年数	$\frac{\text{市債残高} - \text{現金} \cdot \text{預金}}{\text{償還充当可能財源}} (\text{年})$	13.7	7.7	6.7	4.8	8.5	11.4	7.7	6.9	6.3
6 負債対標準財政規模比率	$\frac{\text{負債}}{\text{標準財政規模}}$	4.4	2.0	2.2	2.1	2.5	0.4	3.3	2.8	3.5

\* 類似市平均については、合併等により例年ペースの数値でないC、F及びGは除いて平均

用語解説	<p>① <u>正味資産構成比率(正味資産/資産) × 100</u></p> <p>資産総額に対する正味資産の割合を示し、民間では自己資本比率ともいいます。(50%が目安) この指標が高いほど、将来返済しなくてもよい財源により固定資産を整備した割合が大きいかを示しています。</p>
	<p>② <u>流動比率(流動資産/流動負債) × 100</u></p> <p>民間では短期的な支払能力を測定する指標として、安全性を示すものとして用いられます。(100%を超えることが望ましい) 市においては、流動資産のうち税等の未収金が増加すると高くなることもあり、見方には注意が必要です。</p>
	<p>③ <u>予算額資産比率(資産/歳入総額)</u></p> <p>資産合計をその年度の歳入合計で除すことにより、総資産形成のために何年分の歳入が充当されたかを見る指標で、比率が高いほど社会資本の充実度が高いとされます。他の団体と比較することでその状況を判断することができます。</p>
	<p>④ <u>世代間負担比率(固定負債のうち市債/有形固定資産) × 100</u></p> <p>将来世代による社会資本の負担比率を示す指標で、社会資本整備の結果を示す有形固定資産のうち、市債によって財源を調達した割合を見ることにより、将来世代によって負担されなければならない割合がわかります。この指標が高いほど将来世代の負担が大きく、財政の硬直化を招きます。</p>
	<p>⑤ <u>市債償還所要年数(市債残高 - 現金・預金/償還充当可能財源)</u></p> <p>負債の市債残高について、毎年度市債の償還に当たることが可能な全ての収入を使って償還した場合に、その全額を償還するまでに理論的に何年が必要かを示します。年数が短いほど望ましいと言えます。</p>
	<p>⑥ <u>負債対標準財政規模比率(負債/標準財政規模)</u></p> <p>標準財政規模に対する負債の割合で、財政規模に応じた負債管理を行うものです。財政の健全性の観点から数値は低い方が良く考えられます。</p>